☆Live Bar 雷神 Presents：ばぐーす長谷川のロック向上委員会☆

『第 12 回：Led Zeppelin とフォロワー達』
～基本に立ち返る Hard Rock 論～

2020 年 5 月から毎月 1 回のペースで 1 年間を予定していた“ロック向上委員会”も、今回でとうとう 12 回目＝ラストとなります。そう思って一度振り返ってみましたが、何より「いかにもロック」といったテーマが不足していることに気が付きました（笑）！ちょっとマニアックというか、コアな部分に焦点を当て過ぎたかなと。ですので今回は、その「いかにもロック」を基本に「でも少しマニアック」な内容でお届けしていきたいと思います。

その内容とはズバリ、Led Zeppelin（レッド・ツェッペリン）♪

しかしここからが（ほんの少しだけ）ひねくれていまして、Zep を特集するのではなく『Zep と Zep が残した大きな影響を受けたフォロワー達を聴き比べていく』回にしたいと思います。21 世紀に入ってもとどまるところを知らない Zep の影響力。逆に昔よりも 21 世紀以降の方が好意的に捉えられている気がします。

Zep 現役時代のフォロワー達のサウンドから、80 年代、90 年代、そして 2000 年以降と、なぜフォロワーが後を絶たないのか？を考えながら聴いてみましょう。なぜに Black Sabbath ではなく、Deep Purple ではなく Zep なのかを。

■Opening に相応しく：Led Zeppelin vs Fastway

1: Led Zeppelin / Rock and Roll (Led Zeppelin IV : 1971)

Zep の作品中、最も有名且つ成功した 4th 作。ロックを通る際には必ず聴くであろう名盤。1st で HR の礎を築き、2nd で懐の深さを誇示し、3rd で実験的且つルーツを模索、そしてそれら全ての要素を上手く集結させたのがこの作品である。ヘヴィでハードな面を削ぐことなく、芸術作品として「鑑賞」できるよう仕上げられた稀な名作である。

https://www.youtube.com/watch?v=lncr2g9XJHU

2: Fastway / Easy Livin’ (Fastway : 1983)

Fast Eddie Clarke と Jerry Shirley、新人 Dave King のトリオ編成で制作された 1st 作。Vo：Dave の歌唱がそうさせる面もあるが、楽曲・内容的にも Zep の影を見ることができる作品だ。Zep のような繊細さには遠く及ばないが、シンプルで重厚な R&R/HR が並ぶ隠れた名作と言えるだろう。

https://www.youtube.com/watch?v=2NGZttlZAVw

■本家 Zep 活動中/1970 年代

3: Detective / Grim Reaper (Detective : 1977)

Detective の 1st 作。完全に Zep を踏襲しているが、それもそのはずレーベルは Swan Song Records で、Jimmy Page が別名でプロデューサーとしてクレジットされている。Michael Des Barres を中心としたバンドで人気も高かったが、1978 年に 2nd 作をリリースしてバンドは解散してしまう。

https://www.youtube.com/watch?v=YfMe6uvqEwg

■色々混ざってますがコレでしょう：Led Zeppelin vs Kingdom Come

4: Led Zeppelin / Kashmir (Physical Graffiti : 1975)

Zep 初の 2 枚組 6th 作。Swan Song Records からの Zep 初リリース作である。2 枚組大作にありがちなバラつき感は一切なく、贅肉を削ぎ落した名曲達がひしめいている。バラエティ豊かな曲想でありつつも、メンバー全員のベクトルが同じ方向を向いていたことが手に取るように分かる名盤だ。

https://www.youtube.com/watch?v=tzVJPgCn-Z8

5: Kingdom Come / Get It On (Kingdom Come : 1988)

Zep フォロワーとなると必ず名前が出てくる Kingdom Come の 1st 作。様々な方面から叩かれたが実は人気作である。リーダー：Lenny Wolf による Robert Plant へのオマージュ、Dr の響き、リフ、それら全てが 80 年代の Zep と言えるだろう。80 年代後期の HR/HM 界の中でも、このクオリティの高さで敵うバンドはそうそう居ないと言っても過言ではない。

https://www.youtube.com/watch?v=hj5I3TIeRPM

■ボンゾ死後～Zep 解散後/1980 年以後では

6: Billy Squier / You Should Be High Love (Tale Of The Tape : 1980)

70 年代中後期の米 HR バンド：Piper を率い、ソロ活動へと移行した Billy Squier の 1st 作。2nd から 4th までがセールス的全盛期と言えるが、Piper 時代のバンドらしい骨太さと彼の魅力が上手く溶け合ったこの作品、実は隠れた名盤である。ソリッドで乾いたお得意のサウンドを引っ提げ、歌そのものの魅力に焦点を注いだ素晴らしい内容に仕上がっている。

https://www.youtube.com/watch?v=C3v0_fRRGiE

7: Living Colour / Cult Of Personality (Vivid : 1988)

Living Colour 史上最もセールス的成功を収めた 1st 作。Mick Jagger に見出されデビューし「黒い Led Zeppelin」と呼ばれ評判になったバンドである。黒さをしっかりと感じさせつつも HR マナーな作品に仕上がっている。黒人による HR/HM という概念をいきなり生み出した歴史的にも意味のある名盤だ。

https://www.youtube.com/watch?v=7xxgRUyzgs0

■先祖返りは大歓迎：Led Zeppelin vs Black Stone Cherry

8: Led Zeppelin / Dancing Days (Houses Of The Holy : 1973)

IV の大成功の後、休憩を挟んで制作された Zep 第二幕的 5th 作。これまでの HR 然とした姿勢を少し転換させた幅の広い音楽性を誇示した内容となっている。サウンド的にもこれまでのどの作品よりもブライトでキャッチーな音作りになっているのが特徴だ。常に変化を止めなかった Zep の作品中、最も異彩を放つ 1 枚と言えるだろう。

https://www.youtube.com/watch?v=qztKD75J2BM

9: Black Stone Cherry / Please Come In (Folklore And Superstition : 2008)

21 世紀を代表する HR バンド：Black Stone Cherry の 2nd 作。デビュー当初は Lynyrd Skynyrd の現代 HR 版的なスタイルであったが、この 2nd 作から現在に掛けてはヘヴィでモダンな HR バンドへと変身している。Zep スタイルというよりも、70 年代 HR の集大成を現代に持ち込む形で突き進んでおり、米南部の香りもほのかに漂うバンドとして人気が高い。

https://www.youtube.com/watch?v=ZCYfCz-EEgE

■21 世紀 SSW も Zep マナー/フォロワーは続く

10: Danielia Cotton / Devil In Disguise (Small White Town : 2005)

女性版 Lenny Kravitz と評されデビューした黒人女性 SSW：Danielia Cotton の 1st 作。70 年代的 HR の匂いをさせつつも、カントリー・ソウル寄りだったりキャッチーなポップ・ロックもやったりという趣だが、この Opening を飾る曲は Zep の血そのもの。SSW 的感性を持ち素朴な素材そのままでバンドを率いてやったら Zep 風になったという感じの名演である。

https://www.youtube.com/watch?v=6OFuw_iIzmM

■続・ 先祖返りは大歓迎：Led Zeppelin vs Rival Sons

11: Led Zeppelin / When The Levee Breaks (Led Zeppelin IV : 1971)

前出の名盤/4th 作。Jimmy Page 特有の引っ掛かるリフ、Zep 流 R&R、神秘的なバラード、ファンキーな楽曲、メンバー全員に根付いた英国フォークのトラディショナルな感性、そしてひねくれた Zep 流 Blues Rock と完璧だ。ここまで自らが切り開いた音楽があっただろうか？そう思わずにはいられない名盤中の名盤である。

https://www.youtube.com/watch?v=FFDYuO53BUk

12: Rival Sons / Open My Eyes (Great Western Valkyrie : 2014)

デビュー時の大騒ぎ振りは消えてしまったが、良質な作品をリリースし続ける Rival Sons の 3rd 作。名盤 1st に対し 2nd はオリジナリティを出そうともがいていたが、この作品は 1st の自由奔放さはそのままに、緻密さを加えた作品に仕上がっている。南部寄りの Black Stone Cherry や大御所達による Black Country Communion とは別の、ガレージ的爆発力を持った名盤だ。

https://www.youtube.com/watch?v=WnEZzLSPNZY